

4. キリの来た道

キリは植物学では中国原産の樹木とされる。実際に日本の山野に生育しているキリは、植栽されたものか、そこから種が散って野生化したものであり、森林の中に自然に生育している個体は認められないとされる。では、いつ頃日本にきたのだろうか？

日本の遺跡から出土した木材の樹種を調べた成果をまとめた「木の考古学」でキリの出土例を調べると、青森県の三内丸山遺跡や岩渡小谷(4)遺跡で縄文時代前期(約6000年前)の板材等にキリが確認されている。埼玉県内では川口市の赤山陣屋遺跡で縄文時代後・晩期(4000~2000年前)の加工材にキリが報告されている。これらの報告から縄文時代の比較的早い時期には日本に渡来していたことがうかがえる。一方で、特定の用途に利用されるわけでもなく、何のために持ち込まれたのは不明である。江戸時代以降は下駄としての利用が圧倒的多数を占めており、キリの下駄のイメージが江戸時代に作られたことがうかがえる。

5. キリの文化史

キリが登場する古典文学としては源氏物語や枕草子が挙げられる。源氏物語には桐壺の巻があり、枕草子の木の花には「桐の木の花、紫に咲きたるはなほをかしきに、葉の広がりざまぞ、うたてこちたけれど、異木どもとひとしう言ふべきにもあらず。唐土にことことしき名つきたる鳥の、選りてこれにのみゐるらむ、いみじう心ことなり。まいて琴に作りて、さまざまなる音のいでくるなどは、をかしなど世の常に言ふべくやはある。いみじう

こそめでたけれ」(桐の木の花が、紫色に咲いているのはやはり風情があるが、葉の広がる様子が、異様におおげさなのだが、他の木々と同じには言い表すべきではない。中国で大きな名前のついている鳥(鳳凰)が、選んでこれ(桐の木)ばかりにとまっているというのは、大変格別な感じがする。言うまでもなく琴に作って、さまざまな音が出てくるということなどを、趣があるとありきたりに言うことができようか。とても素晴らしいことである)との一説がある。

近世では、松尾芭蕉が「我宿の淋しきおもへ桐一葉」との句を読んでいる。紋章としてもよく使われており、皇室を始め、足利氏、織田氏、豊臣氏等の武将が知られている。(高橋敦)



子授け
安産
厄除け

こうのとりのお宮

鴻神社

〒365-0076 埼玉県鴻巣市本宮町1-9

TEL:048-542-7293 / FAX:048-543-2282

<http://www.koujinja.or.jp>



学校法人 鴻巣佐藤学園

鴻巣幼稚園

園長 佐藤 芳隆

〒365-0038 鴻巣市本町6丁目3番4号(東小学校前)

TEL (048) 541-0575 FAX (048) 543-6222

HP <http://www.kounosu-kg.com/>

f 鴻巣幼稚園

幼稚園専用駐車場完備

レストラン なごみのや

—— クレアこうのす入口右側 ——



選べるソースのパスタと各種お食事
ご予算に応じてお弁当・店内貸切パーティー承ります



鴻巣市中央 29-1
TEL 048 (540) 8080



営業時間 11:00~17:00
※17時以降は予約制となります



駐車場
あります

380年の伝統 人形のふるさと鴻巣で最大のお店

ひな人形

宏田屋

TEL: 048-541-8888

鴻巣市人形1-6-18 営業時間 9:00~19:00

定休日:5月~10月は月曜日 11月~4月は無休

赤物のふるさと「人形町」の成立 ～日本で唯一の「人形」地名～

我が国に「人形」という地名(登記の町字名)は「東京都中央区日本橋人形町」と、「鴻巣市人形」の2例しかありません。ところが日本橋の事例は「人形浄瑠璃」にちなんで命名のため、鴻巣の地名「人形」が唯一の「人形生産地」にちなんで命名された事例になります。江戸時代、現「人形」の大部分の地域は鴻巣宿ではなく「上谷新田村」でした。江戸時代初期に、現・常光地区にある「上谷村」の飛地として新田開発がなされ、旗本・藤堂氏の領地として後に「上谷新田村」が成立しました。江戸時代中頃から人形の生産が始まり、隣町「鴻巣宿」と家並みが一体化(加宿)したことから「鴻巣人形」「鴻巣雛」と呼んで販路が拡大されました。

ときは明治22(1889)年、鴻巣宿・上生出塚村・下生出塚村、更に「上谷新田」の地域が合併して新たに「鴻巣町」が誕生します。上谷新田は「鴻巣町」の一部になり、正式の登記地名が埼玉県北足立郡鴻巣町「大字鴻巣元上谷字新田」となりました。しかし、住民は町内会の名称を伝統地場産業である「鴻巣人形」にちなんで

「人形町」と命名し、郵便物の表記など実生活においては大字である「鴻巣元上谷」ではなく、町内会名の「人形町」を好んで使いました。

1960年代初頭、政府内で「住民基本台帳を整備し、台帳には登記地名の大字を記載、習慣地名の住所使用は禁止する」との方針が内定しました。70余年に渡って親しまれてきた「人形町」が住所として使用できなくなるということです。

昭和40(1965)年、鴻巣市は「人形町町内会」の地域を、登記地名「人形1～4丁目」に改編しました。町内会名の「人形町」が晴れて正式の地名「人形」に昇格したのです。「住民基本台帳法」成立のわずか2年前、「滑り込みセーフ」の大英断でした。

英断の裏には「影」も…。300余年の歴史を持つ「上谷新田」の地名は失われてしまいました。「このす歴史散歩・第8回」は、まぼろしの「上谷村字新田」です。あわせてお読みください。(栗原俊也)



人形町町内会区域の「旧地名・新地名」

旧地名

大字鴻巣元上谷字新田(旧・上谷新田村=旗本領)の全域
大字鴻巣字鞠子(旧・鴻巣宿字鞠子=勝願寺領)の大部分
大字鴻巣字東側(旧・鴻巣宿字東側=幕府直轄領)の一部
大字原馬室字下曾部(旧・原馬室村下曾部=幕府直轄領)の一部

新地名

人形1丁目③～⑧番 2丁目①②番 3・4丁目
人形1丁目①②番
人形2丁目③番
人形1丁目⑨番